

巻頭言 就任のご挨拶

「知の総和」答申における 認証評価制度への提言を受けて

令和7(2025)年2月、中央教育審議会は、いわゆる「知の総和」答申において、少子化時代を背景とした高等教育機関における「教育の質保証」を前面に出した。

翻って、平成17(2005)年1月に出された「我が国の高等教育の将来像」答申においても、既に、「機関別評価と専門職大学院評価のみでなく分野別評価についても積極的に採り入れられることが期待される」と述べられており、20年前から分野別の評価については触れられていたが、そこに段階別評価の考え方はなかったと言えよう。「知の総和」答申では、平成16(2004)年に開始された認証評価制度に関して、「『評価のための評価』から脱却し、評価の在り方や内容、活用方法等を含め、質確保と負担軽減のバランスを踏まえた制度の抜本的見直しが必要である」と述べ、新たな評価制度は、「単に評価基準に対する適合・不適合を判定するのではなく、在学中にどれくらい力を伸ばすことができたのかといった大学等の教育の質を数段階で示すなど、多様で高度な研究活動にも裏打ちされた高等教育による付加価値を明確化する仕組みとすべきである」と述べて段階別評価の公表を示している。そして、「教育の質が十分に担保されていない機関については撤退を促していくことが望ましい」と指摘した。ピア・レビューを主体に、個性と精神のある私立大学を中心として「大学の質保証」を向上させてきた当機構としては、短期間の成果主義による我が国の人材養成に対しては警告を発してきた。孔子は「一年を考えると種をまけ、

公益財団法人
日本高等教育評価機構 理事長
安井 利一



十年を考えると木を植えよ、百年を考えると人を育てよ」と言っている。

国家百年を考えるには「人を丁寧に育てること」が重要であることは言うまでもないが、それは高等教育機関の評価のみで遂行できるものでもなからう。

新役員名簿（敬称略・五十音順、任期2年）

●理事（18人）

〈理事長〉安井 利一
〈副理事長〉沢 良子
〈常務理事〉伊藤 敏弘（公財）日本高等教育評価機構事務局長
〈理事〉
青木 二郎 弁護士法人内幸町総合法律事務所代表社員
安部 直樹（学）九州文化学園理事長
石田 優子（学）石田学園副理事長、広島経済大学学長
小出 秀文 日本私立大学協会常務理事・事務局長
柴田 近 東北医科薬科大学学長
清水 一彦（学）松商学園理事、松本大学学長、
松本大学松商短期大学部学長
新藤 博明（学）城西医療学園理事長、日本医療科学大学学長
瀬戸熊 修（学）千葉工業大学理事長
瀬野 隆（学）国士館理事長
高井 昌史（株）紀伊國屋書店代表取締役会長
塚本 英邦（学）塚本学院副理事長、大阪芸術大学副学長、
大阪医療大学学長、大阪芸術大学短期大学部学長
西村 泰志（学）常翔学園理事長
水戸 英則（学）二松学舎理事長
三輪 博美（学）名古屋電気学園常務理事・経営統括本部長
山谷敬三郎（学）北翔大学理事長、北翔大学名誉教授

●監事（2人）

妹尾喜三郎 元大蔵省（現・財務省）印刷局長
三田村典昭 三田村会計事務所代表

	C	O	N	T	E	N	T	S	
巻頭言⇒就任のご挨拶									1
報告⇒令和7(2025)年度 評価結果									2
インタビュー⇒東京聖栄大学 谷内ひろみ氏									3
インタビュー⇒目白大学 今野裕之氏									4
STUDY 評価システム⇒									
より良い自己点検評価書に向けて									5
委員会レポート⇒ファッション・ビジネス系専門職大学院 評価判定委員会									6
NOTE⇒第4期評価システム変更のポイント 評価報告書の構成と公表方法の工夫について									6
From JIHEE⇒新たなフォローアップ支援 など									7
会員校									8

19大学・2短期大学・1専門職大学院の認証評価を実施

当機構は、令和7(2025)年度に、19大学・2短期大学、1ファッション・ビジネス系専門職大学院の認証評価と2大学の追評価を行い、その結果を公表しました。また、31大学から89件、2短期大学から2件の改善報告を受けて審査を行い、その結果を大学へ通知しました。

■第4期評価システムで初めての評価

令和7(2025)年度は、19大学・2短期大学、1ファッション・ビジネス系専門職大学院の認証評価を実施しました。その結果、18大学・2短期大学・1研究科を「適合」、1大学を「不適合」としました(表1)。「不適合」の要因は、学内規則に基づく自己点検・評価が定期的に実施されていないこと、設置基準上必要な教員数及び教授数の不足などでした。「適合」判定を受けた受審校のうち、12大学と1短期大学には「改善を要する点」の指摘がありました。また、過年度の認証評価で「不適合」となった2大学に対し、追評価を実施した結果、それぞれ改善されたことが確認できたため、「適合」としました。

■「独自基準」に多くの優れた取り組み

評価結果を基準ごとに見ると、「優れた点」は「独自基準」に最も多く、16件ありました(表2)。第4期からは、受審校が設定する「独自基準」に対して特色ある取り組みなどを「優れた点」として取上げることとしています。主な内容としては、地域連携や地域貢献が最も多く、専門性を生かした地域活動や、地域社会と連携した専門人材の育成が挙げられています。

当機構のホームページでは、全ての「優れた点」を年度別にまとめて公表していますのでご確認ください。(当機構HP>評価結果>認証評価結果における大学等の優れた取り組み)

■内部質保証の実質化への取り組み

第4期では、大学等に対し自己点検・評価に基づく改善への取り組み状況などの内部質保証の実質化を求めています。また、基準2「内部質保証」の基準項目2-3「内部質保証の機能性」に、「学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用」という評価の視点を加えました。昨年度の評価において、これに関する「優れた点」が複数挙げられています。また、自己点検・評価や外部評価で発見された課題などと、それらの課題などに対する改善状況及び今後の取り組み

予定についても記述を求めました。自己点検評価書の構成については、本誌5ページをご覧ください。

■91件の改善報告書を受理

令和7(2025)年度は、31大学から89件、2短期大学から2件の改善報告書と根拠資料の提出がありました。当機構は、これらの改善報告書が各大学・短期大学のホームページで公表されていることを確認した上で、大学は改善報告等審査会及び大学評価判定委員会にて、短期大学は短期大学評価判定委員会にてそれぞれ審議を行い、その結果を大学・短期大学へ通知しました。

当機構のホームページでは、改善報告書の提出があった大学・短期大学名と該当の基準項目を年度別にまとめて公表しています。

(当機構HP>評価結果>改善報告書等の公表及び提出)

表1 令和7(2025)年度 評価結果の概要

●大学機関別認証評価

「適合」18大学

愛知工業大学／秋田看護福祉大学／沖縄国際大学／金沢星稜大学／亀田医療大学／岐阜医療科学大学／岐阜保健大学／九州医療科学大学／高知リハビリテーション専門職大学／神戸情報大学院大学／国際ファッション専門職大学／聖マリア学院大学／東京聖栄大学／長崎国際大学／ビジネス・ブレークスルー大学／文化ファッション大学院大学／山口学芸大学／和歌山信愛大学

「不適合」1大学

大阪府岡医療大学

●短期大学機関別認証評価

「適合」2短期大学

長崎短期大学／ヤマザキ動物看護専門職短期大学

●ファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価

「適合」1研究科

文化ファッション大学院大学ファッションビジネス研究科

●追評価

「適合」2大学 ※()内は認証評価受審年度

三育学院大学(令和3(2021)年度)／広島都市学園大学(令和4(2022)年度)

表2 基準ごとの指摘件数(19大学・2短期大学の合計)

基準	基準1 使命・目的	基準2 内部質保証	基準3 学生	基準4 教育課程	基準5 教員・職員	基準6 経営・管理と財務	独自基準
指摘の種類							
優れた点	5	4	14	8	3	1	16
改善を要する点	3	10	7	3	8	13	—

評価校

第4期評価システムの初年度である令和7(2025)年度に評価を受審された、東京聖栄大学企画調整室次長の谷内ひろみ氏に、第3期からの変更点への対応を中心にお話を伺いました。



谷内 ひろみ 氏
東京聖栄大学
企画調整室次長

評価結果の感想をお聞かせください。

適合との評価結果をいただけたことは、率直に安堵いたしました。本学は小規模大学ですが、教職員一丸となって、学生にとってより良い大学となることを目指して各種取り組みを進めています。本学の特色の一つである「地域連携」の単位化は、前回の認証評価で評価員の先生からのご示唆を踏まえて実現したことです。また、今回受審のタイミングでは改正私立学校法の施行があり、自己点検評価書の作成に判断を迷うことが数多くありましたが、評価機構への相談を活用することで、安心して受審することができました。

今回の受審における自己点検・評価をどのように取組まれましたか。

第3期との変更点として大きく影響のあったことは、自己点検評価書に「成果が出ている取組み、特色ある取組み」を自ら記載する様式になったことです。毎年度自己点検・評価活動を行っていく中で、「この内容はうちの大学のいいところだね」と教職員間で話し合いながら、記載内容に反映していきました。結果、記載内容から「優れた点」を評価いただいたことで、自大学の長所として、自信にもなりました。もう一つは、「指定するエビデンス資料」が示されたことです。これにより、評価基準内で求められる内容がより明確化したと感じております。「指定するエビデンス資料」の内容が、学内において受審前に

整備されていなかった場合、本来整えるべき内容であると認識し、検討の上、準備を進めることができました。

1泊2日で実施した実地調査の感想をお聞かせください。

学外からご意見をいただく機会としての認証評価は、改善・向上のPDCAの観点からも大変貴重な機会だと考えております。今回、実地調査1週間前に「面談・依頼事項」をお示しいただいたこともあり、当日の面談が効率的に実施でき、相互に必要なコミュニケーションも取ることができました。1泊2日と短期間であっても、評価員の先生方のご意見に気付かされることが数多くあり、大変有意義であったと感じております。

内部質保証についてはどの様に取り組まれていますか。

まず、内部質保証の体制について再確認を行い、規程の整備を行いました。内部質保証の責任機関である「大学運営会議」を中心に、教職協働により内部質保証のPDCAサイクルが自走して回るよう取組んでいます。その中でも、学生をはじめ、ステークホルダーの意見を踏まえて改善に取り組むことは、益々重要になってきていると感じています。今回「優れた点」で評価いただいた学生の意見くみ上げシステムの一つである「学長・教職員と学生との意見交換会」は平成21年度から毎年度実施しておりますが、学生の声を大学運営に生かす取組みとして、日々改善を重ねています。

今回の自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえ、どのように改善していくのかについてお聞かせください。

「改善を要する点」「参考意見」としてご指摘を受けた内容については真摯に受け止め、毎年度行う自己点検・評価活動の中で取組み状況の管理を進めてまいります。これに加え、現在文部科学省では、新たな評価システムの検討がなされています。本動向にも注視しつつ、学生の成長に繋がる教育を実施し、地域社会や職業社会で活躍できる人材の育成を引続き進めてまいります。

評価員

当機構では、令和7(2025)年度に第4サイクル最初の認証評価を実施しました。

新しい評価システムの評価を経験された評価員にインタビューを行い、ご意見を伺いました。

※評価員の守秘義務のため、今野氏の担当校名は掲載しません。



今野 裕之 氏
目白大学 学長
(当機構の評価員養成検討
委員会委員、評価チーム団長)

担当した大学の印象に残っている点について教えてください。

受審校は、地域に深く根ざした教育と地域貢献を着実に実践しており、その姿勢が随所に感じられる大学でした。一方で、改善を要する点と参考意見はいずれも学生募集に関する課題であり、地域における意義や存在感が明確な大学であっても、学生募集の難しさを抱えているという現実を改めて実感しました。また、受審校は、評価への準備や当日の対応において、教職員が一体となって真摯に向き合っている様子が感じられ、評価を自大学の教育の質を見直す真の機会として捉えていた点が、評価員として大変印象に残っています。

新しい評価システムの書面調査、実地調査を実施したの感想をお聞かせください。

新しい評価システムは、全体として効果的な評価に十分貢献していたと感じています。電子データへの統一により、これまでのように大部の資料を机上に広げる必要がなくなったことも、小さな事ですが良い変化だと感じました。財務資料など書込みながら理解を深めたい資料については若干の課題感が残りましたが、今後の改善に期待しています。実地調査の1泊2日への短縮については、評価チームがポイントを絞り、面

談や視察を主体的に組立てることが一層重要になると感じました。

担当校の自己点検評価書は適切に記述されていたとお考えになりますか。

適切に記述されていたと思います。ただし、自己点検評価書の構成変更により、優れた取組みや課題が明確になった一方で、受審校にとっては、各項目に何をどのように記述すべきか迷いが生じやすく、内容を整理し記述に重複が生じないように工夫をすることが大切だと感じました。内容面では、第4期の重点評価項目でもある内部質保証について、仕組みが実質的に機能していることに加え、その持続性を外部に向けて示すため、規程や会議体を適切に整備した上で自己点検評価書に記述することが重要だと感じました。

評価員養成検討委員会では、今後どのような研修を検討していますか。

昨年度に引続き第4期評価システムの導入期に当たる今年度は、評価水準の全体的な統一に向けた取組みが進められています。令和7年度の実績を踏まえ、令和8年度評価員が実際に様式を操作しながら学べるケーススタディ形式の研修の新たな導入がなされる予定です。評価員同士の連携強化も重要な課題として認識されており、チームごとの情報共有や団長座談会など、横の連携を深めるための取組みの充実も議論されています。

評価員として大切にしていることを教えてください。

評価が受審校の発展に真に資するものであることを意識しています。書面質問をする際にも、面談で質問をする際にも、指摘のための指摘にならないよう、受審校が前向きに改善に取り組めるような視点で評価に臨むことを心掛けています。

より良い自己点検評価書に向けて

第4期評価システムでは、内部質保証の実質化を促進するために、自己点検評価書の構成を変更しています。第4期初年度の自己点検評価書の内容を踏まえ、受審校の皆様がより一層理解を深めていただきたい点を中心に情報を発信します。

■基準全体で記述する項目の拡充

第4期評価システムから、自己点検評価書の各基準において、基準全体で記述する項目を拡充しています。

基準全体に関して、エビデンスなどを用いた分析結果を、次の3項目で記述することを求めています。

- (1) 成果が出ている取組み、特色ある取組み
- (2) 自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など
- (3) 課題などに対する改善状況と今後の取組み予定

■成果が出ている取組み、特色ある取組み

「(1) 成果が出ている取組み、特色ある取組み」については、受審校が自ら「自己点検・評価を踏まえ、使命・目的に照らして、特筆すべき成果が出ている取組みや個性・特色ある取組み」を記述し、特色の進展を更に促すことを目的としています。表1を参照し、ぜひ積極的に選定してください。

評価チームはこの項目を確認し、優れていると判断した場合は、評価結果に「優れた点」として取上げます。取上げやすくなるためには、記述に対するエビデンスでの裏付けが不可欠です。提出がない場合には、状況確認を行う場合があります。受審校におかれましては、双方の負担軽減の観点から、自己点検評価書の記述内容に応じたエビデンス資料の提出が有効であることをご理解ください。また、「書面質問及び依頼事項」については、疑問点、問題点以外の「優れた点」に関する確認も含まれることを認識の上、前向きな回答にご協力をお願いします。

■自己点検・評価や外部による評価で発見された課題と改善状況

「(2) 自己点検・評価及び外部による評価で発見された課題など」「(3) 課題などに対する改善状況と今後の取組み予定」は、各項目の関連性を明示することにより、PDCAの循環を確認する狙いがあります。表2で記入例を示していますので、参考にしてください。

■評価の視点に関わる自己判定の留意点を新設

第4期評価システムでは、社会の支持を得るための支援を更に強化することを目的に、受審校がステークホルダーに評価結果などを周知することを留意点に加えています。基準項目2-3「内部質保証の機能性」の「自己点検・評価、認証評価などの結果を積極的に公表・説明し、学生や学外関係者の理解・支持を得られるよう努力しているか。」が該当します。

第4期初年度においては、自己点検評価書での記述が見受けられないケースがあったため、当該留意点に基づく自己評価を必ず行ってください。

表1 優れた点の基本的な考え方

◆質の保証及び向上に寄与する取組み
◆個性・特色があり一定の成果を挙げている取組み
◆先進的で一定の成果を挙げている取組み
◆十分に成果を挙げている取組み
◆十分に整備され、機能している取組み
◆他大学の模範となるような取組み

表2 自己点検評価書記入例

[基準4の自己評価]	
(略)	関連性を示してPDCAの循環を記述
(2) 自己点検・評価や外部による評価で発見された課題など	
令和○年○月に実施した自己点検・評価において、学修ポートフォリオに関し、活用のための周知に課題があることが判明した。	
	いつ・どこでを具体的に記述
(3) 課題などに対する改善状況と今後の取組み予定	
令和○年○月に、学修ポートフォリオ活用ハンドブックを作成し、全学生に配付した。今後は、令和○年○月を目途に、教員を対象としたフィードバックの行い方に関するFDを実施する予定である。	

ファッション・ビジネス分野の創造性と国際性を重視した評価

FB 委員会は、ファッション・ビジネス系専門職大学院の分野別認証評価を行っており、現在、東京の文化ファッション大学院大学の1研究科が対象となっています。

FB 委員会は、大学評価と同様に、評価システムの審議や認証評価の判定等、評価の中心的な役割を担っており、審査プロセスも変わりありません。



川村 大介 氏
学校法人名古屋自由学院
学院長、理事長
(ファッション・ビジネス系専門職
大学院評価判定委員会委員長)

ただ、主な異なる点として以下が挙げられます。

- (1) 分野別認証評価であるため、評価の周期が、7年ではなく5年となります。
- (2) 大学評価が大学という機関全体を評価するのに対し、分野別認証評価では専門職大学院の教育研究活動の状況を中心に評価します。
- (3) 分野別認証評価の特徴として、基準4「教育課程」の基準項目4-3において、学位名称等に照らした教育課程の内容・水準の適切性や開設科目の配置等に関する評価の視点があります。また、基準5「教員」の基準項目5-3において、教員人事に限定した教学部門における意思決定の適切性を確認します。

ファッション・ビジネス分野の特性として、世界規模で、変化が速く、先進的であり、創造性が強く求められ、日本という枠組みを超越していることが挙げられます。このため、FB 委員会は、ファッション業界に深い識見を有する複数の委員で構成されていますが、評価に当たってはファッションはもとより創造性と国際性を重視しています。

受審校は、2006年に開設した後、5年ごとの認証評価を当機構で過去4回受審し、4回とも「適合」の判定を受けています。直近では2025年度に実施し、その評価結果を公表しました。FB 委員会は、今後とも同大学院とともに、認証評価の目的である自律的な教育研究の質の向上及び改善に寄与したいと思います。

NOTE

第4期評価システム変更のポイント

評価報告書の構成と公表方法の工夫について

当機構は、第4期評価システムにおいて、大学が社会の支持を得るための支援を更に強化することを目指しています。

各大学の評価報告書について、特に、ステークホルダーである高校生、保護者の方を念頭に置いて、分かりやすさを意識した構成の変更を行っています。判定に、不適合の根拠を記載するとともに、総評を文章から表形式に改め、各基準の評価を一覧にしています。総評を参照して、それぞれの基準の内容を確認できるよう

な流れを作り、読みやすさの向上を図っています。

また、評価報告書1ページ目の下にQRコード及びリンクを付しています。アクセスをすると、当機構のホームページが開き、当機構スタッフによる認証評価結果の見方の説明を読むことができるよう工夫をしています。

より多くの方にお役立ていただきたく、ぜひご活用ください。

(当機構HP>進学を控えた受験生・保護者・進路担当教員のみなさま)



新たなフォローアップ支援がスタート(有償)

令和8年度から「改善報告書等の提出」又は「追評価」の対象校に対し、大学の自律的な質保証と確実な改善に向けた新たなフォローアップ支援を開始します。

【対象】

- ・前年度認証評価受審校のうち「改善報告書等の提出」又は「追評価」が求められた大学、短期大学、ファッション・ビジネス系専門職大学院

【フォローアップ期間】

- ・認証評価受審翌年度の7月から当該年度の3月末日まで（延長も可）

【主な内容】

- ・「改善を要する点」の指摘内容の詳細な説明
- ・改善計画の立案に関する助言
- ・改善への取組み内容に関する相談
- ・改善経過の確認
- ・フォローアップ終了時の講評
- ・その他必要な支援

なお、実施内容や費用等の詳細は、当機構ホームページをご確認ください。

(当機構 HP>機構の活動>内部質保証への支援)

象とする守秘義務についても、第4期評価システムの内容を踏まえて整理を行いました。

以下については、当機構ホームページに公表していますので、ご確認ください。

- ・個人情報保護方針（プライバシーポリシー）
- ・特定個人情報等の取扱いに関する基本方針
- ・認証評価に従事する評価者の守秘義務に関する規程

今後も法令遵守と情報管理の徹底に努め、ステークホルダーの皆様から一層の信頼を得られるよう、適正な事業運営に取り組んでまいります。

(当機構HP>機構の情報>諸規則)

米国の高等教育質保証の現状と課題に関する調査研究結果を公表

「認証評価に関する調査研究 第13号」を令和7(2025)年10月に発行しました。本報告書は、令和5(2023)年度から令和6(2024)年度にかけて実施した、米国の高等教育質保証の現状と課題に関する調査研究の結果を取りまとめたものです。

当時、当機構評価システム改善検討委員会委員であった早田幸政氏(元中央大学教授)に主導的な立場でご協力いただき、同国の地区アクレディテーション機関における評価結果の活用を中心に分析しました。また、地区アクレディテーション機関のHLC、質保証関係機関のCHEAなどに聴き取り調査を実施しました。

本報告書は、ホームページで全文を公開しています。

(当機構HP>機構の活動>広報・刊行物>認証評価に関する調査研究)

**プライバシーポリシーの変更などを公表**

当機構は、公益財団法人として公益性を担保するとともに、社会から高い透明性と健全性が求められています。事業者の責任を果たす観点から、令和8(2026)年4月に、個人情報の適切な取扱いを確保するため、関連規則の見直しを行い、プライバシーポリシーなどを変更しました。

また、認証評価に従事する評価者など個人を対



左右に配置された流線は「地球」と、両手で作る「輪」をイメージしています。大学と社会を結ぶ機構でありたいとの想いを込めました。

PeeR(ピア) 第21号

令和8(2026)年7月7日発行

編集人 伊藤敏弘

編集 天津憲治 佐藤仁美 大東英美 竹村直樹

発行 公益財団法人 日本高等教育評価機構

所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-11 第2星光ビル2階

TEL 03-5211-5131 FAX 03-5211-5132 URL <https://www.jihee.or.jp/>

当機構へのご意見・ご質問や「PeeR(ピア)」へのご要望はこちらへ

✉ hyoukakikou@jihee.or.jp

ホームページからもお問合せいただけます



大学
352 校

公立 2 校

●北海道

旭川市立大学

●山形

東北公益文科大学

私立 350 校

●北海道

育英館大学

札幌大学

札幌大谷大学

札幌国際大学

星槎道都大学

日本医療大学

函館大学

北翔大学

北星学園大学

北洋大学

北海学園大学

北海商科大学

北海道科学大学

北海道情報大学

北海道千歳

リハビリテーション大学

酪農学園大学

●青森

青森大学

青森中央学院大学

柴田学園大学

八戸学院大学

八戸工業大学

弘前医療福祉大学

●岩手

富士大学

盛岡大学

●宮城

尚絅学院大学

仙台大学

東北医科薬科大学

東北工業大学

東北文化学園大学

●秋田

秋田看護福祉大学

ノースアジア大学

●山形

東北芸術工科大学

東北文科大学

●福島

奥羽大学

東日本国際大学

福島学院大学

●茨城

茨城キリスト教大学

日本ウェルネス

スポーツ大学

日本国際学園大学

●栃木

足利大学

国際医療福祉大学

作新学院大学

●群馬

育英大学

関東学園大学

共愛学園前橋国際大学

群馬バース大学

ぐんま未来大学

高崎商科大学

東京福祉大学

●埼玉

浦和大学

共栄大学

埼玉医科大学

埼玉学園大学

十文字学園女子大学

尚美学園大学

西武文理大学

東都大学

東邦音楽大学

日本工業大学

日本医療科学大学

日本栄養大学

日本保健医療大学

日本薬科大学

人間総合科学大学

平成国際大学

明海大学

ものづくり大学

●千葉

愛国学園大学

植草学園大学

江戸川大学

開智国際大学

亀田医療大学

川村学園女子大学

神田外語大学

三育学院大学

秀明大学

聖徳大学

清和大学

千葉科学大学

千葉工業大学

千葉商科大学

麗澤大学

SBC 東京医療大学

●東京

桜美林大学

大妻女子大学

嘉悦大学

国立音楽大学

国際ファッション

専門職大学

国士舘大学

こども教育宝仙大学

情報経営イノベーション

専門職大学

昭和医科大学

女子美術大学

杉野服飾大学

高千穂大学

多摩大学

帝京大学

帝京科学大学

帝京平成大学

東京有明医療大学

東京医療学院大学

東京音楽大学

東京家政学院大学

東京工科大学

東京国際工科専門職大学

東京純心大学

東京女子体育大学

東京聖栄大学

東京成徳大学

東京造形大学

東京富士大学

東京保健医療専門職大学

東京未来大学

桐朋学園大学

二松学舎大学

日本体育大学

日本医科大学

日本歯科大学

日本獣医生命科学大学

日本女子体育大学

日本文化大学

ハリウッド大学院大学

ビジネス・

ブレークスルー大学

文化学園大学

文化ファッション大学院大学

武蔵野音楽大学

目白大学

ヤマザキ動物看護大学

LEC 東京リーガル

マインド大学院大学

SBI 大学院大学

●神奈川

神奈川工科大学

鎌倉女子大学

産業能率大学

松蔭大学

湘南医療大学

昭和音楽大学

星槎大学

洗足学園音楽大学

田園調布学園大学

日本映画大学

八洲学園大学

横浜商科大学

横浜創英大学

横浜薬科大学

ZEN 大学

●新潟

開志専門職大学

開志創造大学

国際大学

長岡大学

新潟医療福祉大学

新潟経営大学

新潟国際情報大学

新潟青陵大学

●富山

高岡法科大学

桐朋学園大学院大学

富山国際大学

●石川

金沢学院大学

金沢工業大学

かなざわ食マネジメント

専門職大学

金沢星稜大学

金城大学

北陸大学

北陸学院大学

●福井

仁愛大学

福井工業大学

●山梨

健康科学大学

身延山大学

山梨学院大学

●長野

佐久大学

長野保健医療大学

松本大学

松本歯科大学

●岐阜

朝日大学

岐阜医療科学大学

岐阜協立大学

岐阜女子大学

岐阜保健大学

東海学院大学

●静岡

静岡英和学院大学

静岡産業大学

静岡福祉大学

静岡理工科大学

浜松学院大学

●愛知

愛知学院大学

愛知学泉大学

愛知工科大学

愛知工業大学

愛知産業大学

愛知東邦大学

愛知文教大学

愛知みずほ大学

一宮研伸大学

桜花学園大学

岡崎大学

椋山女子学園大学

星城大学

大同大学

中部大学

東海学園大学

同朋大学

豊橋創造大学

名古屋葵大学

名古屋音楽大学

名古屋外国語大学

名古屋学芸大学

名古屋経済大学

名古屋芸術大学

名古屋造形大学

名古屋文理大学

日本福祉大学

人間環境大学

名城大学

●三重

鈴鹿医療科学大学

四日市大学

四日市看護医療大学

●滋賀

成安造形大学

聖泉大学

びわこ学院大学

びわこ成蹊スポーツ大学

びわこリハビリテーション

専門職大学

●京都

京都医療科学大学

京都外国語大学

京都看護大学

京都芸術大学

京都情報大学院大学

京都先端科学大学

京都美術工芸大学

種智院大学

花園大学

平安女学院大学

明治国際医療大学

●大阪

和泉大学

大阪青山大学

大阪大谷大学

大阪音楽大学

大阪観光大学

大阪経済法科大学

大阪芸術大学

大阪工業大学

大阪国際大学

大阪歯科大学

大阪樟蔭女子大学

大阪商業大学

大阪成蹊大学

大阪電気通信大学

大阪常盤大学

大阪人間科学大学

大阪物療大学

大阪保健医療大学

大阪行岡医療大学

関西医療大学

関西外国語大学

関西福祉科学大学

滋慶医療科学大学

四條畷学園大学

四天王寺大学

摂南大学

千里金蘭大学

相愛大学